

東京商船大学 商船学部 運送工学科

東京商船大学は明治8年に創設された商船学校をその前身とし、以来110年余にわたり船舶の運航に関連する諸般の学術を中心として教育研究の充実をすすめてきております。

この間、戦後の学制改革により昭和24年には新制大学となり、また産業社会構造変化の多様化に対応して、その教育研究目的を関連分野に広く指向させ、昭和52年には従来の機関学科から分離改組した舶用制御工学科が設置され、さらに翌年の昭和53年には従来の航海学科から分離改組した運送工学科が設置されました。

したがって現在は単一学部のもとに従来の2学科および分離開設の2学科の合計4学科から構成されており、学生総数は約650名となっています。また昭和49年には大学院研究科修士課程が設置され、現在は4専攻が置かれています。さらに従来の2学科(航海学科、機関学科)に限り、4年卒業で海技従事者(海技士)の免状取得希望者のために、学部卒業後引き続き6か月間の乗船実習科が設けられています。

以下、筆者の所属する運送工学科について紹介します。

運送工学科は広義の物流(基礎通路施設、基礎ターミナル施設、包装、輸送、保管、荷役、流通加工、情報

流、商流、流通助成など)を系統的に把握し、計画し、管理運営できる総合教育をねらったユニークな学術として発足し現在に至っております。陸、海および空の全運送システムがその対象でありますが、カリキュラムは特に工学ベースを中心としたうえで、関連の基礎共通工学、社会科学を周辺に配置させています。現在は4講座で構成されていますので、そのカリキュラム、研究の中心テーマを紹介いたします。

管理工学講座は物品輸送の形態、貨物管理、統合物流システムズアナリシスおよび計画をテーマとしています。施設工学講座はターミナル倉庫、輸送機器および荷役機械の管理と計画をテーマとしています。防災工学講座は輸送交通の安全と事故災害の分析およびその防災をテーマとしています。情報工学講座は計算機、情報処理および物流情報システム設計をテーマとしています。

以上のように本学科の主目標は物流システムの工学的設計、管理運営の能力を身につけた学生を社会に送り出すことに置かれています。本学科の学生定員は現在25名/学年の小規模ですが、将来に向けて中規模定員が欲しいものと思っています。参考のために授業科目を表1に示しておきます。(山田猛敏)

表1 授業科目

分野	学 科 目 名
一般教育目	人文科学 哲学, 倫理学, 心理学, 歴史学, 文学
	社会科学 法学, 経済学, 社会学, 地理学, 統計学
	自然科学 代数幾何, 解析, 物理学, 物理学実験, 天文学, 化学, 化学実験
外国語科目	英語, 独語, 仏語, 西語
保健体育科目	体育理論, 体育実技
教職専門科目	職業指導, 教育原理, 教育心理学, 青年心理学, 教育実習, 工業科教育法
専門教育科目	運送管理論, 貨物管理論, 運送システム費用分析論, 運送計画論, 運送管理工学実験, 輸送機器論, 荷役機械論, 運送施設論, 運送施設工学実験, 防災学原論, 運送防災論, 運送防災工学演習, 運送システム工学, 航海システム工学, 航海情報工学演習, 船舶実習, 卒業論文, 運送工学概論, 計算機科学, 情報処理論, 計算機特論, 安全工学, 人間工学, 交通工学, 港湾土木工学, 経営工学, システム工学, 計測論, 信頼性工学, 制御理論, 基礎電気工学, 電子回路, 応用電気工学, 応用数学, 数値解析, 応用物理学, 応用化学, 化学工学, 商船概論, 航海学概論, 船体構造論, 航海環境論, 海洋環境論, 操船論, 海運経済論, 経済地理学, 商法, 運送保険論